

令和8年度 病虫害防除情報

令和8年10月1日

発表：福島県病虫害防除所

**エゴマの子実を食害する害虫が発生しています。
被害拡大を防ぐため、侵入に注意してください。**

- 1 対象作物：エゴマ
- 2 病虫害：モンオビヒメヨトウ
- 3 対象地域：全域

【発生経過】

令和7年10月、大沼郡三島町のエゴマほ場において、子実の被害（写真1）と幼虫（写真2）が確認された。採集した蛹（写真3）を飼育した結果、令和8年5月及び6月に成虫が羽化し、農林水産省横浜植物防疫所による同定の結果、令和8年7月17日に「モンオビヒメヨトウ」と判明した。本県において、栽培エゴマでの本種による被害確認は初めてとなる。

【形態】

- (1) 幼虫は体長約25mmで、暗褐色を呈する（写真2）。
- (2) 蛹は体長約10mmで、土壌中に土繭を作る（写真3、4）。
- (3) 成虫は体長約13mmで、前翅は灰褐色から赤褐色を呈し、黄白色の斑紋がある。触角は、オスが繊毛状（写真5）、メスが糸状である。

【発生生態】

本種は年1回の発生で、蛹で越冬する。成虫は9月上旬頃に羽化し、幼虫は9月中旬から10月上旬にかけてエゴマの子実を食害する。10月下旬頃から土壌中に土繭を作り、蛹となって越冬する。

幼虫はがくの外側から穴を開けて子実を食害する。被害が多発すると収量が著しく低下し、収穫皆無となる場合がある。

【防除対策】

現在、本種に登録のある農薬は無く、防除は耕種的対策が中心となる。

本種幼虫はその場で越冬し、次世代成虫の発生源となるため、前年に被害が発生したほ場への植付をさける。

【写真】



写真1 エゴマの子実の被害の様子



写真2 老齢幼虫の様子



写真3 蛹の様子



写真4 土繭の様子



写真5 モンオビヒメヨトウ成虫（オス）の様子

● 情報内容への質問や要望は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727